

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

— 平成 1 1 年 1 2 月 調査結果 —

(平成 1 1 年 1 2 月 2 7 日)

○調査期間：平成 1 1 年 1 2 月 1 4 日～1 7 日

○調査対象：全国の 3 9 1 商工会議所が 2 6 3 6 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 7 製造業 6 4 5 卸売業 2 4 0
小売業 7 6 0 サービス業 6 0 4

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

※ D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業部 調査課 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6、7 8 4 3
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>) でもご覧になれます。

【平成11年12月調査結果のポイント】

マイナス幅の縮小傾向は引き続き一進一退で推移

- 12月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース。以下同じ）は建設業、製造業、卸売業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したものの、小売業、サービス業でマイナス幅が拡大したことから、DI値は前月水準よりマイナス幅が0.7ポイントと僅かながら拡大したが、総体的には前月とほぼ同水準の▲43.4となった。昨年8月の調査開始以来の最低値（▲66.9）の後、本年4月までマイナス幅の縮小傾向が続いていたが、その後、マイナス幅の縮小傾向は一進一退の状況が続いている。中小企業の景況は下げ止まり、改善の傾向も一部窺われるが、回復へのはつきりとした動きは依然見えない。マイナス水準での推移は平成3年4月以来105ヶ月連続、マイナス2桁水準での推移は同年9月以来100ヶ月連続となった。

建設業では、受注量不足の指摘が引き続き多く寄せられているほか、「工事量は多少増加しているが、競争が激しく採算面は厳しい」「一部企業で明るさがみえるが、業界全体でみれば横這い」など採算面の悪化や企業間格差の拡大も指摘されている。また、延長が決定された「住宅ローン減税に期待したい」との声も寄せられている。製造業では、受注量の減少など業況低迷の指摘が多いが「情報通信関連機器の売上好調により受注量が増加」（電子部品）、アジア経済の回復基調から「一部企業で受注が増加するところが出始めた」（繊維機械）や「輸出に動きが出てきた」（産業用機械）などの声が寄せられている。しかし輸出に関しては、「円高の進行から採算面は厳しい」（金物）との指摘も寄せられた。卸売業では、個人消費の低迷の指摘が引き続き多く、加えて青果物の安値による採算面への影響も指摘されている。また、「2000年問題で正月は家で過ごす人が多いというので、例年より食品が動くかもしれない」との期待も寄せられた。小売業では、「一部好調な高級品が見られるが全体としては水面下の状態」など消費低迷の指摘が多く寄せられている。ギフト関連については「個人需要は堅調ながら、法人需要が低迷」していることから「全体としては前年割れ」との声も寄せられた。また、「暖冬の影響により防寒物が不振」、「青果物の作柄良好による安値のため利益があがらない」などの声が多く寄せられている。一方、2000年問題対応から、「カセットコンロ、ポリタンク、ミネラルウォーター等の動きが活発」といった声が寄せられた。サービス業では、飲食店、旅館を中心に「忘年会・新年会の予約が低調」で「客単価も下落傾向」との指摘が多く寄せられたほか、ソフトウェア関連からは「2000年問題特需も一段落し、次に期待できる目玉が無い状態」との声もある。

売上面では、製造業、卸売業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したものの、建設業、小売業、サービス業でマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の売上DIは前月水準とほぼ同水準の▲40.0となっている。採算面では、製造業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したものの、他の4業種でマイナス幅が拡大したことから全産業合計の採算DIは前月水準よりマイナス幅が1.7ポイント拡大して、▲42.8となっている。

- 向こう3ヶ月（平成12年1月～3月）の先行き見通しは、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲36.2と現状より好転するとの見方となっている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、年末年始の消費動向や年明け後の受注動向に関心が高い。

【業況についての判断】

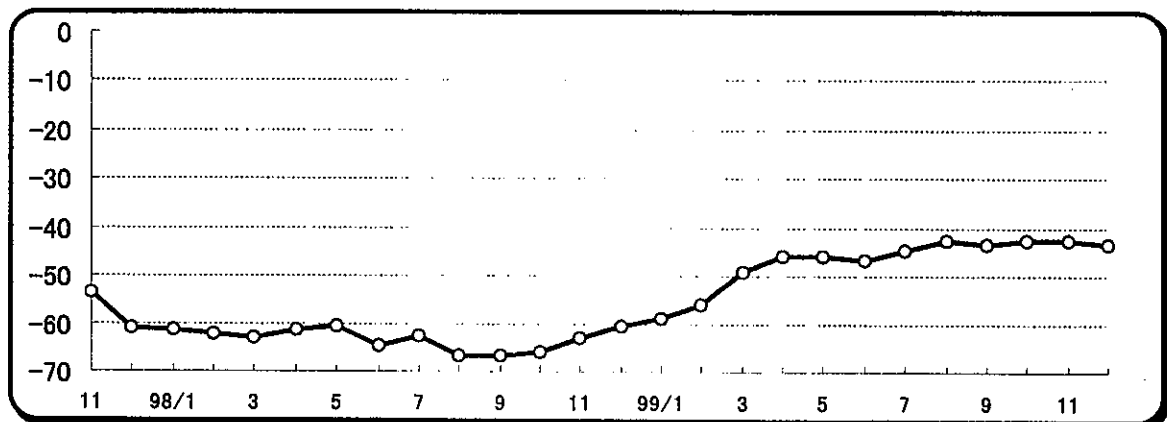
- 全産業合計の業況D I（前年同月比ベース。以下同じ）は建設業、製造業、卸売業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したものの、小売業、サービス業でマイナス幅が拡大したことから、D I 値は前月水準よりマイナス幅が0.7ポイントと僅かながら拡大したが、総体的には前月とほぼ同水準の▲43.4となった。昨年8月の調査開始以来の最低値（▲66.9）の後、本年4月までマイナス幅の縮小傾向が続いていたが、その後、マイナス幅の縮小傾向は一進一退の状況が続いている。中小企業の景況は下げ止まり、改善の傾向も一部窺われるが、回復へのはっきりとした動きは依然見えない。マイナス水準での推移は平成3年4月以来105ヶ月連続、マイナス2桁水準での推移は同年9月以来100ヶ月連続となった。
- 向こう3ヶ月（平成12年1月～3月）の先行き見通しは、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が▲36.2と現状より好転するとの見方となっている。

業況D I（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	▲44.6	▲42.5	▲43.4	▲42.7	▲42.7	▲43.4	▲36.2 (▲50.3)
建設	▲41.2	▲46.7	▲40.1	▲43.6	▲43.5	▲43.1	▲41.3 (▲51.6)
製造	▲43.1	▲40.5	▲40.0	▲38.2	▲37.3	▲34.6	▲28.1 (▲51.5)
卸売	▲42.0	▲32.8	▲40.2	▲39.3	▲42.8	▲39.8	▲28.3 (▲42.3)
小売	▲50.2	▲48.6	▲51.1	▲50.7	▲50.0	▲53.7	▲44.2 (▲53.2)
サービス	▲42.6	▲38.5	▲41.4	▲38.7	▲38.7	▲41.8	▲34.5 (▲47.4)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3ヶ月の先行き見通しD I
（ ）内は昨年12月の先行き見通しD I <以下同じ>

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



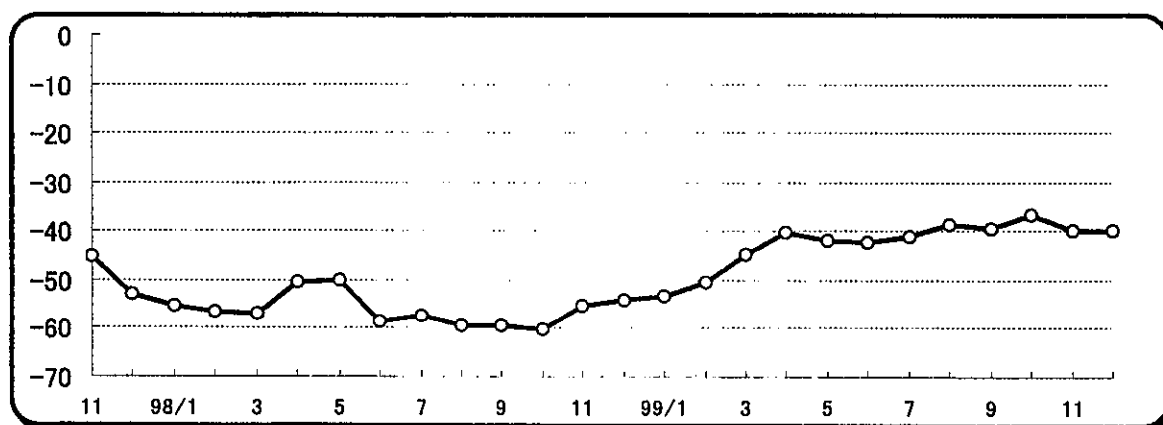
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、製造業、卸売業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したものの、建設業、小売業、サービス業でマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の売上DIは前月水準とほぼ同水準の▲40.0となっている。
- 向こう3ヶ月（平成12年1月～3月）の先行き見通しは、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲33.8と現状より好転するとの見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	▲41.2	▲38.8	▲39.3	▲36.8	▲39.8	▲40.0	▲33.8 (▲46.5)
建設	▲35.3	▲43.2	▲37.0	▲36.6	▲36.2	▲38.5	▲38.5 (▲45.3)
製造	▲39.6	▲38.5	▲33.3	▲32.2	▲31.9	▲29.5	▲26.7 (▲48.8)
卸売	▲33.1	▲25.3	▲35.1	▲34.9	▲41.6	▲34.9	▲25.9 (▲32.5)
小売	▲49.3	▲47.4	▲50.9	▲42.9	▲51.1	▲52.6	▲42.7 (▲48.4)
サービス	▲40.1	▲31.0	▲35.2	▲35.2	▲35.8	▲38.8	▲30.3 (▲47.9)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



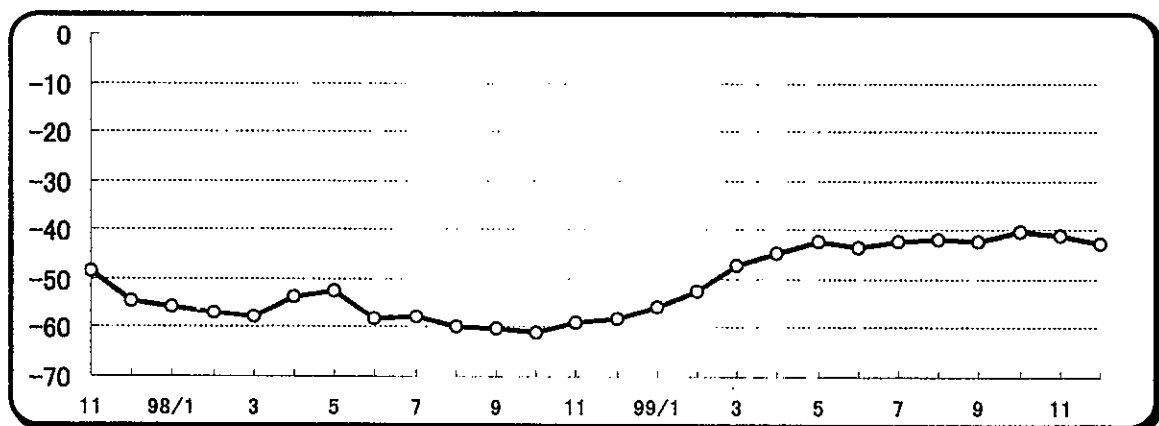
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、製造業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したものの、他の4業種でマイナス幅が拡大したことから全産業合計の採算D Iは前月水準よりマイナス幅が1.7ポイント拡大して、▲42.8となっている。
- 向こう3ヶ月(平成12年1月～3月)の先行き見通しは、全産業合計の業況D I(今月比ベース)が▲35.5と現状より好転するとの見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	▲ 42.5	▲ 41.9	▲ 42.5	▲ 40.4	▲ 41.1	▲ 42.8	▲ 35.5 (▲ 47.0)
建設	▲ 41.5	▲ 48.8	▲ 45.7	▲ 44.7	▲ 42.6	▲ 42.9	▲ 40.8 (▲ 48.8)
製造	▲ 46.2	▲ 44.4	▲ 40.7	▲ 40.2	▲ 41.0	▲ 36.6	▲ 31.8 (▲ 49.1)
卸売	▲ 38.1	▲ 35.6	▲ 40.8	▲ 38.1	▲ 40.0	▲ 42.4	▲ 29.7 (▲ 35.5)
小売	▲ 44.3	▲ 45.3	▲ 45.6	▲ 42.0	▲ 44.5	▲ 50.3	▲ 43.6 (▲ 49.5)
サービス	▲ 38.6	▲ 32.4	▲ 39.1	▲ 36.6	▲ 36.6	▲ 40.0	▲ 28.0 (▲ 44.8)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全産業	▲ 0.7	▲ 2.8	▲ 2.0	▲ 1.3	▲ 1.4	▲ 1.1	▲ 3.1 (▲ 2.7)
建設	1.8	1.4	1.4	4.7	1.9	1.8	▲ 5.3 (▲ 4.2)
製造	▲ 4.7	▲ 4.2	▲ 4.8	▲ 4.4	▲ 7.6	▲ 4.9	▲ 9.0 (▲ 5.4)
卸売	9.5	▲ 2.9	1.8	1.2	10.8	1.2	1.2 (0.0)
小売	1.9	1.1	0.8	0.0	1.7	4.7	3.9 (2.8)
サービス	▲ 4.9	▲ 9.4	▲ 6.3	▲ 4.7	▲ 5.9	▲ 7.1	▲ 5.8 (▲ 6.8)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】製造業、小売業で下落超感強まる。

【先行き見通しD I】建設業、製造業、小売業で上昇超感強まる見通し。

従業員D I (前年同月比) の推移

	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全産業	▲ 15.9	▲ 15.2	▲ 14.7	▲ 14.8	▲ 13.9	▲ 15.1	▲ 12.0 (▲ 15.4)
建設	▲ 21.6	▲ 25.4	▲ 25.3	▲ 22.5	▲ 19.2	▲ 25.8	▲ 23.0 (▲ 19.4)
製造	▲ 24.4	▲ 19.7	▲ 18.4	▲ 18.1	▲ 21.2	▲ 19.6	▲ 14.9 (▲ 23.8)
卸売	▲ 15.4	▲ 17.8	▲ 15.9	▲ 12.4	▲ 11.4	▲ 9.6	▲ 7.7 (▲ 13.6)
小売	▲ 9.9	▲ 9.7	▲ 9.2	▲ 9.2	▲ 9.9	▲ 10.5	▲ 8.5 (▲ 11.5)
サービス	▲ 10.4	▲ 8.8	▲ 9.8	▲ 13.3	▲ 8.4	▲ 10.8	▲ 8.1 (▲ 10.7)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】建設業、小売業、サービス業で過剰超感強まる。

【先行き見通しD I】全業種で過剰超感弱まる見通し。

【平成11年12月の景気キーワード】

○ 先行き不透明感

「補正予算の手応えがでてきている」（十日町・一般工事）、「荷動きに好転の兆しが現れ始めた」（徳島・製材）、「ユーザー（鉄鋼）の急回復に期待している」（岡山・耐火物）などの声の一方で、先行きの受注についての不透明感の指摘が多く寄せられている。建設業では「国の補正も県の補正予算も具体的にまだ見えてこない。1月から年度末の仕事が少なく対応に苦慮する」（小千谷・一般工事）、「公共工事の受注の減少、住宅ローン減税の効果も乏しく業況は非常に厳しく年が明けても業況は変わらない見通し」（倉敷・管工事）などの声が寄せられている。製造業では、「年内は仕事量が確保されているが、1～3月期が不透明」（帯広・機械、相生・船舶修理）、「繁忙期に入るも今後の推移に警戒感がある」（浜松・織物）や「消費の回復が遅れており、横這いで先行きが見えない」（境港・食品）などの声が寄せられている。サービス業からは「2000年特需も一段落し、次に期待できる目玉が無い」（名古屋・ソフトウェア）などの声も寄せられている。

○ 消費の低迷

「一部高級品に動きが見られるが全体としては水面下の状態」（札幌、京都、八尾・大型店他）をはじめ消費の低迷を指摘する声は引き続き多く寄せられている。歳暮商戦については、「個人は前年並みで推移しているが、法人は件数よりも単価ダウンが目立つ」（下関・大型店）、「個人需要は堅調ながら、法人需要は低迷」（鹿児島・大型店）などから「ギフト全体としては前年割れ」（静岡・大型店）との見方も寄せられている。また、暖冬の影響も引き続き指摘されており、「暖冬のため洋品店の売れ行きが悪い」（与野・商店街）、「暖冬による冬物衣料不振のため消費下降感あり」（別府・商店街）などの声が寄せられている。サービス業からは、「忘・新年会の予約は低調」（久慈、館山・旅館、静岡・すし店、境港・飲食他）や「グループ又は少数の仲間同士での宴会が行われ、ほとんどが個人負担のため大きなお金が落ちない」（北九州・飲食）など客数の減少、客単価の下落が指摘されている。

○ 2000年問題

2000年問題対策から、「カセットコンロ、ポリタンク、ミネラルウォーター、灯油などの動きが活発」との声が寄せられている（二本松、川崎、亀岡、松原、草津、八尾・大型店）。また、「2000年問題で正月は家で過ごす人が多いというので、例年より食品が動くかもしれない」（むさし府中・総合卸）といった期待感や「宅配は減少しているが、トラック輸送は2000年問題の買い溜めのため多少増加」（石岡・輸送）といった声も寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
11年10月	下げ止まり感	需要の低迷	天候不順
11月	先行き不透明感	需要の低迷	天候不順
12月	先行き不透明感	消費の低迷	2000年問題

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	売上・採算D Iは前月水準に比べてマイナス幅が拡大しているが、業況D Iはマイナス幅が縮小している。受注量不足の指摘が引き続き多く寄せられているほか、「工事量は多少増加しているが、競争が激しく採算面は厳しい」「一部企業で明るさがみえるが、業界全体でみれば横違い」など採算面の悪化や企業間格差の拡大も指摘されている。また、延長が決定された「住宅ローン減税に期待したい」との声も寄せられている。
製 造	業況・採算・売上D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。受注量の減少など業況低迷の指摘が多いが「情報通信関連機器の売上好調により受注量が増加」（電子部品）、アジア経済の回復基調から「一部企業で受注が増加するところが出始めた」（繊維機械）や「輸出に動きが出てきた」（産業用機械）などの声が寄せられている。しかし輸出に関しては、「円高の進行から採算面は厳しい」（金物）との指摘も寄せられている。
卸 売	採算D Iは前月水準に比べてマイナス幅が拡大しているものの、業況・売上D Iはマイナス幅が縮小している。個人消費の低迷の指摘が引き続き多く、加えて青果物の安値による採算面への影響も指摘されている。また、「2000年問題で正月は家で過ごす人が多いというので、例年より食品が動くかもしれない」との期待も寄せられた。
小 売	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「一部好調な高級品が見られるが全体としては水面下の状態」など消費低迷の指摘が多く寄せられている。ギフト関連については「個人需要は堅調ながら、法人需要が低迷」していることから「全体としては前年割れ」との声も寄せられた。また、「暖冬の影響により防寒物が不振」、「青果物の作柄良好による安値のため利益があがらない」などの声が多く寄せられている。一方、2000年問題対応から、「カセットコンロ、ポリタンク、ミネラルウォーター等の動きが活発」といった声が寄せられた。
サービス	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。飲食店、旅館を中心に「忘年会・新年会の予約が低調」で「客単価も下落傾向」との指摘が多く寄せられたほか、ソフトウェア関連からは「2000年問題特需も一段落し次に期待できる目玉が無い状態」との声もある。

(参考)

【ブロック別概況】

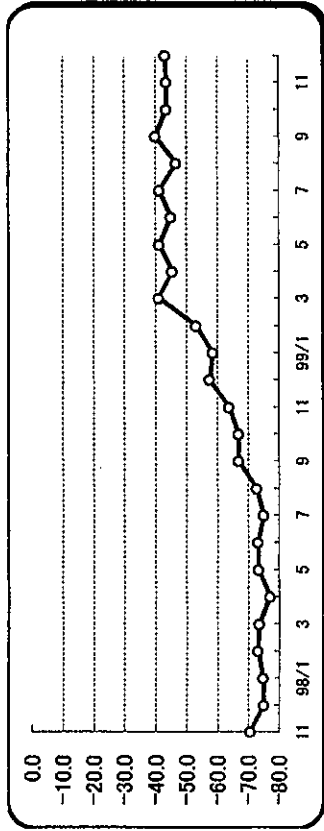
- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）をみると、全産業合計では、全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。ブロック別では、北海道、北陸信越、近畿、中国、四国の5ブロックで前月水準を上回り、東北、関東、東海、九州の4ブロックで前月水準を下回った。
- ブロック別の向こう3ヶ月（平成12年1月～3月）の業況先行き見通しは、全産業合計では、引き続き、マイナス水準。北海道を除く全ブロックで現状より上向くとの見方になっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

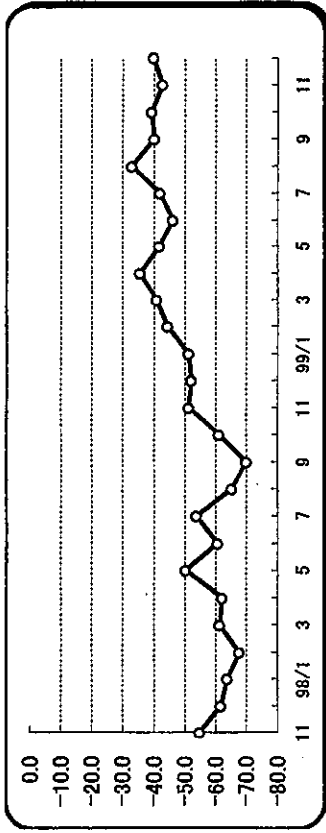
	11年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全 国	▲ 44.6	▲ 42.5	▲ 43.4	▲ 42.7	▲ 42.7	▲ 43.4	▲ 36.2 (▲ 50.3)
北海道	▲ 22.4	▲ 13.5	▲ 18.5	▲ 23.5	▲ 27.3	▲ 23.6	▲ 30.9 (▲ 53.5)
東 北	▲ 37.7	▲ 34.6	▲ 36.6	▲ 34.0	▲ 36.9	▲ 44.3	▲ 40.9 (▲ 50.6)
北陸信越	▲ 49.7	▲ 37.1	▲ 51.0	▲ 44.8	▲ 33.0	▲ 32.4	▲ 24.0 (▲ 48.9)
関 東	▲ 42.7	▲ 43.0	▲ 44.5	▲ 46.2	▲ 44.8	▲ 47.2	▲ 35.5 (▲ 45.0)
東 海	▲ 52.1	▲ 47.3	▲ 51.6	▲ 55.2	▲ 49.7	▲ 54.5	▲ 45.5 (▲ 57.7)
近 畿	▲ 55.9	▲ 54.8	▲ 50.0	▲ 49.2	▲ 55.7	▲ 51.6	▲ 40.4 (▲ 48.6)
中 国	▲ 47.1	▲ 50.3	▲ 49.7	▲ 47.2	▲ 47.9	▲ 43.0	▲ 40.2 (▲ 60.7)
四 国	▲ 49.6	▲ 53.6	▲ 45.9	▲ 48.6	▲ 51.3	▲ 48.7	▲ 35.4 (▲ 47.8)
九 州	▲ 38.8	▲ 40.6	▲ 34.5	▲ 24.7	▲ 32.0	▲ 35.7	▲ 32.4 (▲ 45.4)

業況D I (前年同月比) の推移 (全国)

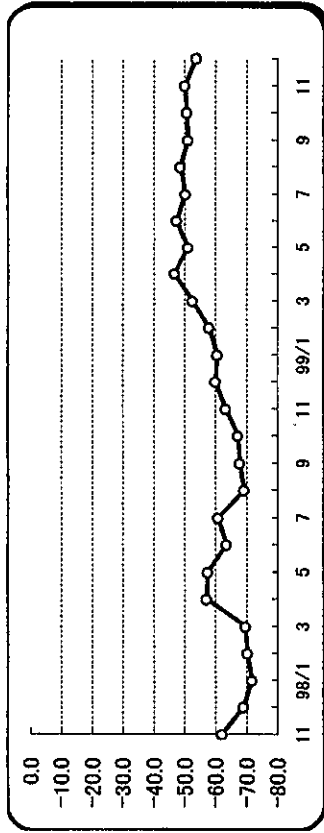
建設業



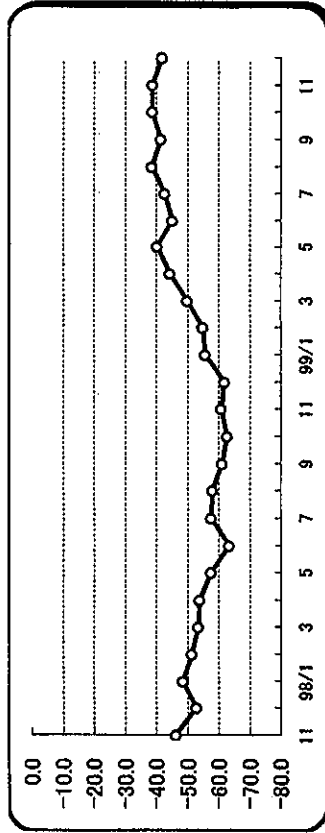
卸売業



小売業



サービス業



製造業

